

第4回 西新宿スマートシティ協議会 議事要旨

日時： 令和3年3月5日(金)14:00～15:15

出席者： 東京都副知事 宮坂学

(敬称略) 学校法人工学院大学

住友不動産株式会社

損害保険ジャパン株式会社

大成建設株式会社

東京瓦斯株式会社

東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社

独立行政法人都市再生機構

株式会社 NTT ドコモ

KDDI 株式会社

株式会社 JTOWER

ソフトバンク株式会社

東日本電信電話株式会社

楽天モバイル株式会社

東京都

開催方法： Web 会議

- 議題：
1. 開会の挨拶《東京都宮坂副知事》
 2. 今年度事業の進め方の確認・本日の位置づけ
 3. 広報・巻き込み TF の実施結果及び次年度以降の活動案の報告
 4. 課題解決 PT・都市 OS 検討 PT の実施結果及び中長期的な視点での検討の実施方針案の報告
 5. 仮説検証 PT の実施結果及び次年度以降の実施方針案の報告
 6. これまでの振り返りと次年度以降の事業の進め方
 7. 質疑応答・閉会の挨拶《一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会》

- 資料：
1. 本編資料
 2. 別紙(アンケート結果)

1. 開会の挨拶(宮坂副知事)

■ 開会の挨拶(P.1)

- 令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、都民の方には新しい生活様式をお願いする一年となった。一方で、東京都もスマート東京の観点で、デジタルテクノロジーを活用した便利なまちを都民の皆様へ提供するために様々な取組を開始した。都庁がある西新宿で、共に未来の東京のモデルとなるまちを作り上げていきたい。
- 仮説検証PTでは、西新宿に関わる人々に対してアンケートを実施し、約3,000名の方から不便に感じていることや困っていることについての意見をいただくことができた。我々がやりたいう事ではなく、西新宿に関わる人々が不便に思っていること、困っていることを理解したうえで、テクノロジーで課題解決にチャレンジしていきたいと考えている。
- 課題解決の方法として、スタートアップのピッチコンテストなどを開催し、スタートアップと連携することで複数の課題解決策の実証を実施することができた。また、一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会(以降、「環境改善委員会」と記載。)による自動運転の実証も大きな成果であった。
- 広報・巻き込みTFでは、ホームページを立ち上げて情報を取りに来ていただくだけでなく、皆様が慣れ親しんでいるLINEを活用することにより、多様な意見を相互に交換してスマートシティの取組に反映していくことになった。
- 1年目からこのような様々な取組を実施できたことについて、環境改善委員会や通信事業者各社、新宿区、西新宿に関わる皆様の多大な協力、尽力に感謝申し上げます。令和3年度も引き続きこの協議会を通じてスマートシティへの取組を進めていきたい。

2. 本年度事業の進め方の確認・本日の位置づけ(事務局)

■ 協議会の運営方針、プロジェクト全体スケジュール概要(P.3~P.5)

- 本日の第4回協議会では令和2年度における各PTやTFの実施結果、次年度以降の実施方針に関して共有し、次年度の進め方に関して討議を行う。

3. 広報・巻き込みTFの実施結果及び次年度以降の活動案の報告(事務局)

■ 2020年度の広報・巻き込みTF全体スケジュール(P.6~P.7)

- 広報・巻き込みTFでは、今年度の主な実施事項としてホームページやLINEの立ち上げを行った他、イベントやVOICEによる意見収集を通じた西新宿に関わる方の巻き込み活動を行った。本日は、前回の協議会以降実施した、資料上の緑色ハイライト部分について報告する。

■ 広報・巻き込み活動の実績報告(P.8~P.9)

- 制作コンテンツ・巻き込み活動として、今年度は大きく5つの活動を行った。10月に立ち上げたホームページは累計で9,000回近く閲覧され、3,000人以上の方が訪問している。LINE公式アカウントは約500人が登録している。今後も様々な活動や意見収集を行う機会を通じてプロモーションとコミュニティ活性化を図っていきたい。

- ホームページの概要(P.10)
 - ホームページには新規に短期実証の紹介ページやVOICEのパートを追加した。閲覧者は先日のWebアンケートの実施時に急激に伸びたが、今後もより都民の方にとってわかりやすい情報の発信を行い、多くの方に見ていただけるよう更新していく予定である。
- 5G等普及啓発体験イベント実施概要(P.11)
 - 5G等普及啓発体験イベントの当日のクロストークの様子と、両イベント時に会場に展示した実証のイラストなどが描かれたパネルを掲載している。イベント当日は、オフラインで約1,400人の方が来場した。次年度も本イベントは内容を変えて実施する予定であり、西新宿スマートシティ協議会としても再び連携したいと考えている。
- リーフレット制作方針・構成(P.12)
 - 現在制作中のリーフレットでは西新宿スマートシティプロジェクトの取組について発信し、住民の方や来街者の方にコミュニティに参加していただくきっかけとなるよう、随時配布していく予定である。表面ではスマートシティプロジェクトの概要やホームページ、LINEの紹介を行い、裏面では実証の詳細を掲載し、初見の方でも西新宿スマートシティプロジェクトを簡単に理解できるような内容としている。
- LINEの概要(P.13)
 - 昨年10月に立ち上げたLINE公式アカウントでは、VOICEや各種アンケートについて配信してきた。ホームページと同様に、2月のWebアンケート実施時に登録者が急激に伸び、現在の登録者数は約500人となっている。
- 合意形成(VOICE)実施結果(P.14)
 - LINEに登録いただいているコミュニティメンバーを対象とした意見収集の活動であるVOICEは合計で2回実施した。株式会社ビーブリッジが2月に収集した意見は、既に同社のARガイドアプリに反映している。また環境改善委員会によるイベント企画内容に関するVOICEの実施結果については、緊急事態宣言の状況を見ながら今後イベントを実施する際に反映予定である。VOICEは試行段階ではあるが、コミュニティメンバーの西新宿スマートシティプロジェクトに対する興味喚起と参画促進につながる仕組みとして今後も発展させていきたい。
- 次年度以降の活動案の共有(P.15～P.18)
 - 広報・巻き込みTFの次年度以降の活動案としては、多様な人々を西新宿の活動に巻き込み、コミュニティメンバーとして西新宿の盛り上げを一緒に行ってくれる主体的なメンバーを増やしていくことを目的に、交流イベントなどの活動を増やしていきたい。最終的には主体的にスマートシティの活動を拡大・活性化してくれるようなコミュニティメンバーを増やしていき、その周囲の人々も含めて多くの人々が西新宿の盛り上げていくような状態を作り上げたいと考えている。
 - 今年度は都民や西新宿ユーザーを主なターゲットに活動してきたが、次年度以降はLINE公式アカウントに登録してくれたコミュニティメンバーをターゲットとした活動への注力が必要だと考えている。

- 具体的には、西新宿の取組やスマートシティの理解を深める機会、コミュニティの声が反映される機会、メンバー同士が交流できる機会を提供するべきだと考えており、オンライン・オフライン双方の観点から、ターゲットをワーカーや居住者と分けることで、それぞれのターゲットにあった企画が設計できると考えている。現時点では案として整理しており、次年度の広報・巻き込みTFで継続して詳細を検討する予定である。西新宿エリア一帯を盛り上げる取組の創出につながることを期待している。
- 協議会の取組ではないが、この場を借りて2点共有する。
 - 1点目として、『西新宿LOVE Walker』という西新宿の情報が発信されているメディアが立ち上げられた。単純な発信のみならず、本協議会メンバーが作り手にもなっているメディアである。
 - 2点目として、スタートアップ支援拠点として、官民の交流やワークショップ、セミナーができる『TOKYO UPGRADE SQUARE』が新宿住友ビル25階に開設された。協議会の活動にも活用していきたい。

4. 課題解決PT・都市OS検討PTの実施結果及び中長期的な視点での検討の実施方針案の報告(事務局)

- 課題解決PT・都市OS検討PTの実施方針、進捗結果共有(P.19~P.21)
 - 課題解決PT・都市OS検討PTについては、今年度検討を進めてきた短期的な視点での実証内容と結果、並びに次年度より実施する中長期的な視点でのプロジェクトについて、報告する。
 - 短期的な視点での検討としては、一般の方も対象としたアイデア募集や産業労働局事業と連携したスタートアップピッチを行った結果、6件の短期実証を推進してきた。また、次年度以降の継続的な取組として中長期的な視点において、現状5つのプロジェクトの実施を検討している。
- 短期の課題解決実証の実施結果(P.22~P.25)
 - 短期の課題解決実証では、緊急事態宣言の影響もあり一部実施時期が延期しているため、現状は3件のみ実施している。それ以外の実証については、状況を見ながら今月以降実施を開始する想定で各社調整を行っている。本日は各実証の企画内容と、既に実施している実証はその結果を報告する。
 - テーマ「①地域の魅力創出」における、東日本電信電話株式会社による実演芸能部活動コミュニティの取組では、プロの落語家の方を招いた部活動を通じ、西新宿におけるコミュニティ活動を行う実証をとって全4回中2回を既に実施している。予定していた2回はコロナの影響で見送っている状況であるが、既に実施した2回では参加者から高い満足度を得られている。
 - テーマ「②認知度向上・地域への参画促進」における、シスコシステムズ合同会社のスマートサイネージの取組では、東京都庁第二本庁舎においてスマートサイネージ1台の

設置が完了しており、その他の設置場所については調整中である。

- テーマ「③移動環境の整備」における、株式会社NearMeのオンデマンドシャトルサービスの取組は、緊急事態宣言の影響で実施時期を延期しているが、西新宿の回遊性向上のためのサービスを提供予定である。
 - 同じくテーマ「③移動環境の整備」における、株式会社ビーブリッジのARガイド・ARナビゲーションの取組では、同社のARガイド・ナビゲーションアプリ「coconey」が12月にローンチされており、新宿区観光協会と連携した情報や、広報・巻き込みTFのコミュニティの中で募った西新宿に関する情報が反映されている。
 - テーマ「④新たなワークスタイルの確立」における、株式会社コトブキと大成建設株式会社による屋外オフィスサービスの取組では、屋外オフィススペースの提供を都庁前と新宿住友ビル前で実施する予定である。
 - 同じくテーマ「④新たなワークスタイルの確立」における、株式会社スペースマーケットのワークスペースマッチングの取組は、西新宿の余剰スペースをオフィススペースとして提供できるよう、地元企業などと調整している状況である。
- 商店街キャッシュレス化の取組に関する共有 (P.26～P.27)
- 前回協議会で東京都より説明した商店街キャッシュレス化の取組については、緊急事態宣言を受けて資料のとおりスケジュールを後ろ倒ししている。事業の進捗については引き続き報告させていただく。
- 中長期的な視点での検討の実施方針共有 (P.28～P.30)
- 今後の中長期的な視点での検討においては、課題解決のテーマ毎にプロジェクトを立ち上げる。また、それらのプロジェクトを支えるエリア共通基盤の整備プロジェクトを立ち上げ、連携することによって西新宿の課題解決を図ることを検討している。
 - 「課題解決のテーマ」と「テーマ毎のプロジェクト」の階層があり、テーマについては事務局が主導して、西新宿に関係する上位計画も踏まえながら、協議会の目的に基づいて、テーマ毎に実現される2～3年後の状態定義を行う。テーマ毎のプロジェクトについては、プロジェクトを立ち上げるリーダーに2～3年後に目指す姿を設定いただき、方向性を共有しながら西新宿の課題解決を図る想定である。
- テーマ毎の実現される2～3年後の状態及びPJの実施方針決定までの進め方案 (P.31)
- 西新宿スマートシティ協議会メンバーが一体となって運営することを重要視したく、事務局が主導する、テーマ毎に実現される2～3年後の状態については皆様の意見を参考に定義したい。本協議会后、課題解決PTの参加メンバーや協議会構成員の方々に対して、状態定義案を共有するため、意見をいただきたい。その後、いただいた意見を参考にブラッシュアップした状態定義案を課題解決PTのメンバーと討議し、次年度の第1回協議会時に再度皆様に確認いただく予定である。
 - 各テーマのプロジェクトの目指す姿については、プロジェクトリーダーにテーマ毎の状態定義案との関連性を考慮しながら検討いただいております。次年度の第1回協議会において共有いた

だく予定である。

- 質問や異議等がなければ、この内容で状態定義案及び目指す姿の検討を進めさせていただく。
- 次年度の会議体等の運営方針(P.32)
- 中長期のプロジェクトについては、課題解決PTにおいて四半期毎に進捗や成果の報告を行うタイミングを設け、その際にテーマ毎に実現される2~3年後の状態定義案についてもブラッシュアップを図っていく。また、報告会とは別に、プロジェクト毎に分科会を開いて進捗確認を行う。会議体以外にも、既に立ち上げているSlackを活用し、PTメンバーやプロジェクト参加者らとの密なコミュニケーションを図る予定である。
- 中長期の課題解決プロジェクト案(P.33)
- 直近で5つのプロジェクトが立ち上げに向けて動いている。これらのプロジェクト以外にも、今後希望に応じて随時立ち上げていく予定であるが、まずは課題解決PTメンバーの皆様にご相談し、立ち上げを検討いただいている。
- 各プロジェクトリーダー候補から、検討している内容などについてコメントをいただく。

—以下各プロジェクトリーダー候補による説明—

(小田急電鉄株式会社)

- テーマ「①地域の魅力創出」において、プロジェクトを立ち上げる。プロジェクト名は、新宿ワンダーウエストを略して「新宿WoWプロジェクト」とした。面白いことや新しいことをみんなでやろうという方針で、将来的には多様なプレイヤーに参画していただけるような場として、リアルとデジタルの活動のプラットフォームを作っていきたいと考えており。複数社と連携しながら準備を進めている。

(東日本電信電話株式会社)

- テーマ「②認知度向上・地域への参画促進」において「コミュニティ形成・交流人口増加プロジェクト」を立ち上げる。
- 今年度は日本芸能実演家団体協議会との連携によってコミュニティを形成し、西新宿の資産について勉強したり、楽しんだりという活動を行ってきた。次年度以降は今年度の取組を継続しつつ、規模を広げたい。
- 様々な方法で情報共有できる時代においても、実体験を共有するコミュニティが存在することによってこそ、まちの魅力が一層力強く周囲に伝わると考えている。ICTによって支えられた、実体験を共有できるコミュニティを形成し、西新宿の更なる魅力の発信につながる取組を進めていきたい。

(損害保険ジャパン株式会社)

- テーマ「③移動環境の整備」において、「次世代モビリティプロジェクト」を立ち上げる。
- 各テーマで創出される西新宿の魅力スポットや新たなワークスペースをつなぐ次世代モビリティを提供する役割を果たしていきたい。
- 昨年より実施している自動運転の取組を継続することに加えて、次世代モビリティの実装を目指して西新宿でチャレンジを行う各企業と連携し、西新宿で時間を過ごす皆様が、安心・安全に移動できるようなサービス展開をしたいと考えている。

(KDDI株式会社)

- テーマ「④新たなワークスタイルの確立」において、プロジェクトを立ち上げる。プロジェクト名は考案中である。
- 今回我々が考案しているプロジェクトでは、在宅勤務が普及している中で、生活者の方々があえて西新宿に集まりたいと感じられるようなワークスペースの提供を目指す。西新宿の関連企業やワーカーの交流機会を増大し、ワーカーが遊ぶように働ける環境の構築を目指したい。
- 新たなワークスタイルの確立というテーマの中でプロジェクトを立ち上げるが、一つのテーマに閉じずに横断的に取り組むことがスマートシティの実現につながっていくと考えている。是非、横のテーマとの連携にも積極的に取り組ませていただきたい。

(一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会)

- テーマ「⑤エリア共通基盤の整備」において、プロジェクトを立ち上げる。
- 今年度は多くの実証実験が実施され、それぞれの実証に見合った実施場所を提供できるように調整を行った。エリアマネジメント組織として多くの実証実験に対応するためには、基盤を整える必要性を感じた。次年度以降は、オープンスペースの利用を促進し、実証実施場所として提供するためのエリア共通基盤を整備していきたいと考えている。

5. 仮説検証PTの実施結果及び次年度以降の実施方針案の報告(事務局)

- 仮説検証PT実施方針、効果検証実施方針、効果検証の考え方(P.34~P.37)
- 仮説検証PTでは、アンケートやインタビューを実施した。今回は効果検証結果として、先日実施したアンケートの結果を報告する。
- 検証は効果検証と課題のアップデートの2つの枠組みで行っている。効果検証の中には2種類あり、1つ目が各実証で実証推進者が実施する効果検証、2つ目はLINEアンケートを活用した個別の取組を横断した効果検証である。課題のアップデートは「西新宿スマートシティ協議会として認識する課題一覧」に対する「新たな課題」の追加要否を確認するものである。次年度以降も同様に実施していくが、効果検証の方法については適宜ブラッシュアップを行う予定である。

- 仮説検証結果の共有 (P.38)
 - 次に具体的な効果検証の実施結果を共有する。なお、個別の取組の検証については、実証完了後の報告とさせていただきます。事務局として、2つの効果検証を実施した。
- 【①-2取組全体の効果検証】LINEアンケート調査概要、結果サマリ (P.39～P.40)
 - 1つ目は、LINEアンケートを活用し、コミュニティメンバーを対象に、今年度実施した各実証が満足度向上に繋がっているか検証した。LINEアンケートは設問数が限られているため、今回は属性情報に関する4つの設問に加え、6つの設問を設定した。結果として、61名から回答をいただき、実証への印象や、協議会として取り組んでほしい取組のニーズとして、スキルアップにつながるイベントやワーキングスペース、混雑状況の情報発信等に関する回答をいただいた。実証を体験した結果の回答ではない点は留意いただきたい。
- 【②課題のアップデート】Webアンケート調査概要、結果 (P.41～P.45)
 - 2つ目は、7月に実施したものと同様の内容でWebアンケートを実施し、課題状況の変化を確認した。Webアンケートの結果は、単純集計とクロス集計に分けている。
 - 単純集計は、西新宿に対する満足度や課題の最新の状況を把握すること、また、西新宿スマートシティプロジェクトとして解決すべき西新宿の課題に対して、新たな課題を追加する必要があるか確認することを目的として実施した。昨年7月に行った集計との比較結果は以下の通りである。
 - ◇ 「遊ぶ環境」と「交流する環境」に対する満足度が低下した
 - ◇ 「昼休みに屋外で飲食できるスペースの拡充」の課題感が増加した
 - ◇ 一方で「3密を回避できる移動空間の提供」に対する課題感が減少した
 - クロス集計は、「西新宿に不満を感じている属性」と「その属性が特に感じている課題」を確認し、課題解決PTの施策のインプットとすることを目的として実施した。
 - ◇ 「働く環境」については、50代女性の不満割合が高く、「オンライン会議環境」に対する課題感が強く出ている
 - ◇ 「遊ぶ環境」については、「30-50代の女性」の不満割合が高く、多数の課題感が強く出ている
 - ◇ 「暮らす環境」や「交流環境」については、変化が見られなかった
- 新規課題の抽出方法、西新宿エリアの課題及び課題解決テーマ (P.46～P.47)
 - 西新宿の課題追加要否の確認については、7月のアンケート実施の際と同様に、西新宿エリアに限らない都心部におけるニーズと西新宿エリアにおける課題を掛け合わせる形で、ニーズが高くかつ西新宿における課題感が強いものを抽出する方法としている。
 - 結果として今年度は課題の追加はなかったため、従前より一覧化している課題の解決に向けて引き続き活動していく予定である。
- 【②課題のアップデート】Webアンケート調査の課題点 (P.48)
 - 今年度実施した課題調査の結果、課題調査を今後実施する上で明らかになった調査設計上の課題を共有する。今年度実施した調査は西新宿エリアにおける重点課題の抽出・最新化

を目的に実施し、達成することができた。一方で、西新宿エリアに対する満足度の増減要因を把握することが難しい設計となっている。

- 満足度の増減は多様かつ複雑な影響を受けて起こるため、課題の状況の変化と満足度の間に直接的な因果関係を見出すことが現時点では困難となっている。今後は、「デジタル技術を活用することで人と人、人と都市をつなげ、西新宿に関わる人のQOL向上に貢献」という目的を達成するため、満足度の増減要因も把握することが必要である。
- 次年度は課題の最新化を引き続き行いつつ、満足度の増減要因も把握できる設計とすべく、仮説検証PTのメンバーの皆様と議論を再度行い、調査を実施することを想定している。
- 次年度以降の実施方針案の共有 (P.49～P.50)
- 次年度以降の効果検証のタイミングとして、個別の取組に関する検証は、都度実施主体者が行う想定とし、取組全体の検証については、事務局が年度末毎に行う。また、課題のアップデートについては毎年2月を想定し、1年周期で行う予定である。

6. これまでの振り返りと次年度以降の事業の進め方(事務局)

- これまでの協議会の主なコメント (P.51～P.54)
- 5月に開催した第1回では、コロナにより変わる生活様式や西新宿エリア内の繋がり、多様なプレイヤーとの合意形成の必要性や防災対策などに関するコメントをいただいた。
- 7月に開催した第2回では、アンケートの結果を踏まえて討議を行い、コミュニティ形成の重要性やオープンスペース等の活用に関する意見を多くいただいた。
- 10月に開催した第3回では、中長期的な視点の取組や、データ活用の必要性に関するコメントをいただいた。
- これまでの協議会で頂戴した意見と事務局の対応 (P.55)
- これまでの協議会でいただいたコメントを踏まえ、事務局やPT/TFの活動に反映した結果を共有する。例として、協議会や広報・巻き込みTFに関連するコメントの「つながり」の形成に向けて、VOICEの取組を行っている。また、仮説検証PTに関連したコメントの反映として、インタビューやアンケートの実施、課題解決PTに関連したコメント踏まえ、課題解決実証の推進や検討を行った。
- 次年度以降の事業の進め方に関して協議会メンバーにいただいたコメント、西新宿スマートシティ協議会の運営方針案 (P.56～P.57)
- 協議会メンバーより、西新宿スマートシティ協議会の運営方針に対する認識を共通化することが必要ではないか、との意見を受けて、事務局にて作成した協議会運営方針案を共有する。
- 本協議会の目的は「デジタル技術を活用することで人と人、人と都市をつなげ、西新宿に関わる人のQOL向上に貢献」することとしており、協議会では西新宿に関わる人のQOLを向上するために5つの課題解決のテーマを設定して取組を進めている。
- 事務局において整理した協議会運営方針案について共有する。将来像と使命については、

公共性を有し、未来への投資ができる行政の皆様がコミットをしている本協議会の特徴を踏まえたものと位置付け、整理している。

- 協議会の将来像として、「目指す姿の実現に向けた課題解決に資する、“デジタル技術を活用したアイデア・サービスが継続的に創出されるモデル”を確立していること」を見据えたいと考えている。
 - 協議会の使命としては、「エリアのQOL向上のため誰もが失敗を恐れずスピード感を持って挑戦できる環境を作り上げること」と考えている。
 - 協議会の価値観については、西新宿エリアの特徴である多様な民間企業が連携するエリアである点を踏まえ、「エリア内外の官民多業種の組織・団体や、多様な個人が有機的に繋がり、互いの強みを活かしあうこと」を大事にしていきたいと考えている。
- 次年度以降の事業の進め方に関する討議(P.58)
- 次年度以降の協議会において実施すべき点や、協議会の将来像・使命・価値観について意見交換を行い、今後の協議会運営の参考とさせていただきたい。

—以下討議内容—

(発言者A)

- 西新宿での活動の幅を広げられたことに感謝している。
- 課題解決PT・都市OS検討PTにおいて2～3年のレンジの取組が始まろうとしている。一方まちづくりの観点では、2月12日に都知事が発表された『「未来の東京」戦略(案)』において、人中心の歩きやすいまちづくりのプロジェクトに西新宿が取り上げられており、2021～2023年の3か年で具体的な検討を進めることとなっている。
- 2040年に向けた長期的なまちづくりの計画に中長期プロジェクトの成果を反映できるのではないかと。例えば、収集した行動データ等を活用し、将来的に必要なサービスや空間について検討を進め、西新宿スマートシティプロジェクトとして活動する場を広げていきたい。

(発言者B)

- 『「未来の東京」戦略(案)』の冒頭で「感染症の脅威」と「気候危機」という2つの危機を乗り越えることを掲げているように、東京都では危機対策を重要なテーマと考えている。気候危機対策については、ゼロエミッションの東京に作り替えることを目標にしており、特に2030年までに東京全体でカーボンハーフ、2050年までにゼロエミッションを目標としている。西新宿スマートシティ協議会としても具体的な取組を検討していくことが必要と考えている。

(発言者C)

- 多様なステークホルダーが主体的に取組を行った結果を踏まえ、ビジョン等が設定された流れは適切である。
- 各プロジェクトが主体的な活動を進めることと並行し、中長期の目標達成に向けて、未来(目

標)と各プロジェクトのつながりや連携方法の検討を行うことで取組の解像度が高まるのではないか。

- プロジェクトのネーミングも含め、プロジェクトの物語化を意識することが重要である。
- ゼロエミッションの目標を達成するためには、具体的な取組を検討する必要がある。

(発言者D)

- 協議会時にチャットが盛り上がる状態は、シティマネジメントの場として良い状態である。
- エリア共通基盤の整備におけるデータ活用のガイドラインやプライバシーポリシーの策定プロセスには、当事者であるコミュニティメンバー等から意見を収集して検討することが重要である。
- 西新宿スマートシティ協議会にはまちづくり学科もある工学院大学が構成員として参画されているため、学生を巻き込んだ取組ができると良いのではないか。
- コミュニティの継続にはモチベーションを維持する仕組みをつくることが重要である。そのため、「ためになるか」「面白いかな」の観点から、コミュニティメンバーにとって「学び」につながる機会の提供等を意識的に仕掛けてはどうか。

(発言者E)

- 将来的には学生がキャンパス内に限らず、西新宿エリア全体で活動できる環境が構築されることが理想である。

(発言者F)

- 工学院大学の学生団体と自社のイベントで連携した際に、学生達は「まちを良くしたい」、「自分の学びにつなげたい」という純粋な気持ちを持っていることを改めて感じた。彼らの気持ちを尊重し、企業に閉じずに、学生や住民を交えたまちづくりの協働が重要である。

(発言者G)

- これまでの日本にない取組として、地元企業・団体が主導する形の、新たなデータ連携プラットフォームが創出されることを期待する。

7. 閉会の挨拶(事務局・一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会 小林事務局長)(P.59)

- 以上が第4回協議会の内容である。
- 今年度の協議会の締めくくりとして、環境改善委員会の小林様より閉会の挨拶をいただく。
(一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会 小林事務局長)
- 今年度西新宿スマートシティプロジェクトを通じて築いたつながりや熱を、次年度以降も継続させていきたい。次年度以降は西新宿の多様な人々が自発的に行動するための意識醸成と、持続的なサービス提供に向けた仕組みづくりが課題であると認識している。次年度以降

も引き続きスマートシティ化のプロセスにおいて、西新宿の人々のQOL向上に資する活動を行っていきたい。

以 上